

教団新報

定 価 1部140円(本体133円+共200円)
予約購読料 1年分 千共 5,000円
紙代のみ 3,500円
振替 00140-9-145275
本紙を購読ご希望の方は、前金を
そえて、お近くのキリスト教書店
へお申し込み下さい。
教会の購読料は負担金に含みます。

発行所 日本基督教団
169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館内 電話03(3202)0546
FAX03(3207)3918
発行人 内 藤 留 幸
編集主筆 竹 澤 知 代 志
印刷所 株式会社きかんし



常議員会出席者の多くも引き続き列席し、恵みの時に与った。

大韓イエス教長老会へ宣教師 日韓の宣教協力に画期的な一頁が

日韓教会交流から東北アジア伝道協力の幻も

10月18日、第37総会期第4回常議員会の日程を終えた教団会議室で、引き続き宣教師派遣式が行われた。教団から大韓イエス教長老会（PCK）への最初の派遣宣教師となる洛雲海（ナグネ）宣教師の長老会神学大学教師就任によるもので、既に、PCK総会に於いて調印式が持たれた。地理的にも歴史的にも、最も近い関係にあり、様々な恵みと幾多の悲惨な出来事をも共有して来た両国宣教史に、画期的な一頁が加えられることとなった。日韓教会交流から東北アジア伝道協力への幻が育まれようとしている。

洛雲海（ナグネ）宣教師派遣式にいたる経過

病氣療養をかねて渡韓し、ソウルでの生活を始めた洛雲海教師（当時は大山和全を米倉美佐男牧師（現在札幌教会）と共に訪ねしたのは1999年の1月のことでした。

5階建ての小さな雑居ビルの6階（すなわち屋上に建てられたプレハブ倉庫）の家の窓は、寒風を少しで

抱いておられたのでし

形は国費ではありませんが、実際は同教会の負担によることでした。ほんの少し、生活が安定したようにお見受けしました。

て教会・伝道に携わることになりました。

同教会は韓国における最初の組織教会で、韓国の「母教会」と呼ばれ、ソウル中心部にある景福宮（そこに

は朝鮮総督府がありまし

た）の近くで120年以上の歴史を重ね、同国においてキリスト教界のみならず

社会においても指導的な働きをしてきました。

また、同教会の青年讚美

隊1000名余が来日し、青山学院大学や諸教会で讚美伝道を実施、2009年にはイ・スヨン（李秀英）主任担任牧師と讚美隊が教団の日本伝道150年大会に参加してくださいました。

これらのことは、同教会が21世紀の新たな日韓教会交流を切り開こうとする意思によることでしたが、その背後には洛雲海教師をとおしての信頼関係の醸成がありました。

2009年秋、イ・スヨン牧師から米倉牧師と私に

対して、洛雲海教師の神学博士号取得のあかつきに

は、長老会神学大学に

いて外国人教授として教授陣の一員に加わる可能性

があること、実現すれば韓国の諸教会に広く関係を結ぶことができ、日韓教会交流すなわち東北アジアにおける伝道協力に意味深いものとなるのではないかと、言われたのであります。

そのために宣教師の活動

を始めています。ご協力を

お願い申し上げます。

NAGUNE会

代表世話人 張田 眞

この時、洛雲海教師に教団教師としての今後の展望を尋ねました。返事は「私は教団教師として接手を受けています」との一言でしたが、その時すでに、日韓教会関係に資するために何らかの働きをしたいとの志を受け入れられたのです。

その後、大韓イエス教長老会（統合）セムナン教会より住居提供の申し出があり、また、国費留学生（韓

国政府招請奨学生）としてセムナン教会協力牧師とし

て教会・伝道に携わることになりました。

同教会は韓国における最初の組織教会で、韓国の「母教会」と呼ばれ、ソウル中心部にある景福宮（そこに

は朝鮮総督府がありまし

た）の近くで120年以上の歴史を重ね、同国においてキリスト教界のみならず

社会においても指導的な働きをしてきました。

また、同教会の青年讚美

隊1000名余が来日し、青山学院大学や諸教会で讚美伝道を実施、2009年にはイ・スヨン（李秀英）主任担任牧師と讚美隊が教団の日本伝道150年大会に参加してくださいました。

これらのことは、同教会が21世紀の新たな日韓教会交流を切り開こうとする意思によることでしたが、その背後には洛雲海教師をとおしての信頼関係の醸成がありました。

2009年秋、イ・スヨン牧師から米倉牧師と私に

対して、洛雲海教師の神学博士号取得のあかつきに

は、長老会神学大学に

いて外国人教授として教授陣の一員に加わる可能性

があること、実現すれば韓国の諸教会に広く関係を結ぶことができ、日韓教会交流すなわち東北アジアにおける伝道協力に意味深いものとなるのではないかと、言われたのであります。

そのために宣教師の活動

を始めています。ご協力を

お願い申し上げます。

NAGUNE会

代表世話人 張田 眞

アンティオキア教会は、サウロとバルナバを福音宣教師として出発させた。宣教師を遣わす業は、キリスト教会の本来の働きに与ることである。その源泉は、「彼らが主を礼拝し、断食している」と、聖霊が告げた」と記されているように、礼拝における主の臨在であり、その体験の中に聖霊が働くことにある。

神の恵みにゆだねられて

派遣式説教 使徒言行録13:1-3、14:21-28

「さあ、バルナバとサウロをわたしのために選び出さないか。わたしが前もって二人に決めておいた仕事に当たらせるためではない。しかも、遣わされる

後にパウロと呼ばれるサウロも、バルナバも、アンティオキア教会にとっては、欠くことのできない御言葉の教師たちであった。彼らを送り出すことは痛手であると言ってよい。しかし、

遣わされる者たちを、神の恵みにゆだねるために神の恵みにゆだねられて送り出された所である」とアンティオキア教会について説明されるように、按手を伴う祈りにおいて、彼らは、遣わされる者たちを、神の恵みに

に「ゆだねた」のだ。「ゆだねる」と訳される「バラディドマイ」と言う言葉は、主イエスの十字架において、「引き渡される」とも「裏切る」とも訳される。その言葉の持つ深みそのものにおいて、主に「ゆだねる」のである。

道が開かれたから遣わすのではない。聖霊の命するままに、わたしたちは今、洛雲海教師を、宣教師として、主の恵みに「ゆだね」、送り出すのである。

《派遣式説教》
秋山徹（世界宣教委員会書記）
（説教要約／林牧人）



派遣式、説教にあたる秋山書記（関東教区議長）

牧師のメンタルケアを巡る講演会

第3回宣教委員会

第37回総会期第3回宣教委員会は10月3日(月)～4日(火)、早稲田奉仕園セミナーハウスにて開催された。加藤幹夫委員長司式による開会礼拝で開始。

教師委員会、教師検定委員会、信仰職制委員会の委員長と書記をメンバー構成とする、教団教師養成制度の検討開始が報告された。台風12号被災地である和

歌山地区を覚え、総幹事名で大阪教区へ教団から50万円の見舞金が届けられた。

統一原理問題全国連絡会から、統一協会の会員が「まじめで熱心なボランティア」として受け入れられていることへの警告、統一原理問題に関する大韓イエス教長老会(統合)との、

より緊密な情報交換をはかるための提案については、張田眞委員長、大三島義孝幹事が窓口となることが報告された。

伝道方策検討委員会から、教団の現状データに基づき分析し、教団内において具体的に伝道に取り組んでいる団体についての、調査を進めていることが報告された。

その後、「障がい」を考える小委員会のメンバーと



重大かつ深刻な課題に真っ正面から向き合うべく

伝道局設置の可能性を検討

第3回伝道委員会

第37回総会期第3回伝道委員会は9月26日(月)～27日(火)、蕃山町教会にて開催された。

26日(月)夜は、教団伝道委員会主催の伝道講演会を諸教会にご案内して開催

した。北紀吉教団伝道方策検討委員長により「魂の叫びをききたもつ神ー一教会の伝道を通してー」との題で講演がなされた。

伝道について具体的示唆を得る講演で参加者が熱心に聴き入った。出席は15教会、32名。

「農」に関する協議会については、2012年2月28日(火)～29日(水)、講演は「賀川豊彦における日本基督教団松山城東教会

かを判断できる信徒(役員)がどれだけのいるか、牧師とその家族のメンタルケアを考えると重要なポイントとなることが語られた。「障がい」を考える小委員会が担ってきたこの課題は、宣教委員会に委ねられた。

前総会期の主題であった「新しい伝道協力の可能性」の方向性の継続、伝道に具体的に示唆のある講演などを求める意見が出された。教人に様々な角度から講演・発題をしてもらう方向性を確認した。

「伝道アイデア・アンケート」については、担当者に内容の精査や分類、留意点などが説明された。担当者よりパンフレットの内容イメージが提示され、協議つ部署、すなわち伝道局が必要でないかとの意見で一致した。

また、伝道局設置の可能性について検討した。現伝道委員会の権限や予算の制限を考えると、伝道のための予算を持ち、更に長期的な研究や計画を作成し実施できる、教団全体の伝道体制に対し責任と継続性をもつ部署、すなわち伝道局が必要でないかとの意見で一致した。

この他に、初雁教会(関東教区)の会堂貸出金申請を承認した。次回は2月27日(月)～28日(火)に松山にて開催される。(小林克哉報)

牧会者と家族のメンタルケアを支える態勢を！

第2回「障がい」を考える小委員会

2011年10月4日(火)～5日(水)、日本キリスト教会館A会議室にて、第37総会期「障がい」を考える小委員会第2回委員会が開催された。

前日から開催されていた宣教委員会において、W・ジャンセン氏(東京神学大学教授、石丸昌彦氏(精神科医)を迎えて「牧会者のメンタルケアの課題」について講演があり、本委員会は出席をした。

神学生に対してどのようなケアが行われているか、牧会者に対してどのような

ストレスがかかっているのか、その問題を共有することができた。特に、牧会者の仕事は、目に見えない「感情労働」が多く、そのストレスから燃え尽き易くなる。さらに、それが感情障害やうつ病などの発症へとつながること

も多い。このための対策は、教団としても早急に考えて行かなければならないと考える。この問題は、「障がい」を考える委員会において5年にわたって取り組んできた課題でもあるので、宣教委員会のもとに「牧会者と

家族のメンタルケアを支える小委員会」のような委員会態勢をとるなど、他の方法も含めて、何らかのアクションが取れるように具体的な要望を発信したい。この件については、次回、委員会でもさらに協議する。

「障がい」を考える全国交流会は2012年7月3日(火)～4日(水)に戸山サンプライズにて「東日本大震災を通して障がいを考えよう」というテーマで開催される。今回は被災地にある2名の方に発題をお願いし、分団協議をすることに

した。また、委員会において、稲松義人委員の発題を通して、知的障がいについての学びの時を持った。内容は本委員会のホームページ知的障がいのコーナーにアップする。また、ホームページには「震災における障がい者に対するアドバース」もアップされている。

次回委員会は2012年2月14日(火)～15日(水)。なお、次回委員会において「発達障がいについて」の学びを持つことにした。(井上隆昌報)

メンタルケアは委員会の長年の課題



石丸昌彦氏



岡山の蕃山町教会で委員会・伝道講演会を開催

荒野の法

▼一人の老婆がトルテイーリヤを焼いていた。一枚をひっくり返すと奇跡が起きた。そこにはイエス・キリストの顔。それ以来、村は聖地となった。トマス・H・クック『夜 訪ねて来た女』、文春文庫、より。▼最も頻繁に利用する火葬場で、収骨時、「これがノドボトケ様です」、担当の職員が、何だか形が奇妙な小さなお骨を箸で拾い上げ、高く掲げて説明する。「少し形が崩れていますが、こうして合わせて見ますと、仏様が座禅しておられる姿に見えます」。参列の人々が、身を乗り出す。或る人は溜息をつき、手を合わせる者さ

農関係者による発題を受ける。「教区伝道委員長会議」については、2012年6月25日(月)～26日(火)、日本基督教団西千葉教会を会場にして行うこととした。主題は「一つと成らんために」とした。

また、伝道局設置の可能性について検討した。現伝道委員会の権限や予算の制限を考えると、伝道のための予算を持ち、更に長期的な研究や計画を作成し実施できる、教団全体の伝道体制に対し責任と継続性をもつ部署、すなわち伝道局が必要でないかとの意見で一致した。

この他に、初雁教会(関東教区)の会堂貸出金申請を承認した。次回は2月27日(月)～28日(火)に松山にて開催される。(小林克哉報)

被災 3 教区の負担金減免

第 2 回・第 3 回予算決算委員会

6月8・9日に第2回予算決算委員会が開催された。内藤留幸総幹事より震災救援対策に関する報告、また、献金状況などについて報告を受けた。続いて、計良祐時財務幹事より、2010年度経常会計第一次補正予算及び決算に関して報告を受け、確認した。常任委員会報告に関連して、下記のように経緯が報告された。

2月に最初の委員会が開催された後、東日本大震災が起り、対応に関して委員長より電話等による連絡を受け、各委員の意見を受

けた後、常任委員会に対応を任せた。特に、被災3教区から申し出のあった負担金の減免に関して検討し、申し出のあった全額を、今期は経常会計での吸収を計ることとしたこと、また「東日本大震災救援対策委員会会計」へ積立金からの一時繰入支出を決定した等について常任委員会報告を受け、承認した。

その後、9月26・27日に第3回の委員会が開催された。被災された3教区の被害はさらに拡大し、負担金の減免額も約880万円の申し出となったが、今期は補正して経常会計で対応す



委員に補充された七條真明氏(高井戸教会、左端)

ることを確認しており、そのように処理したことを確認した。また、2011年度原予算を検討した後、次会計年度の各教区の負担金は、0.5%の減額を目指すこととし、被災3教区の負担金減免額相当を、とりあえず向こう3年間は、他の教区に分担してもらう方向で依頼することを確認した。

予算案での大きな変動は、教団のNCC分担金が、減額を続けてきたが、なお900万円と突出して高額なので、他団体の支出に合わせて妥当な分担額に合わせる方向で交渉すること



被災 3 教区報告に集中的に時間配分

分は他教区で分担する。今例年だと、各教区報告がなされるが、今回は事前配布の報告書で代替され、集中的に、被災3教区報告に時間が充てられ、その痛みを共有した。

次いで、内藤留幸総幹事と計良祐時財務幹事から、10年度の決算報告、被災地への教団救援対策の報告がなされ、11年度予算の被災教区負担金減免額(約863万円)に関し、前年度の繰越金の範囲内で、補正予算として対応できることが付け加えられた。

これに関しては、伊藤予算決算委員長も言及し、更に「12年度予算の負担金は全体として0.5%減の方向であり、被災教区負担金減免

9月27日午後、教区活動連帯金配分協議会が教団会議室で開催された。前日からの全国財務委員長会議に引き続いての会合であったが、沖縄教区、および協議会からの「脱退を表明している東海教区は欠席した。2010年度教区活動連

帯金配分検討委員長の木下宣世東京教区議長の祈禱をもって開会し、同氏が今回の協議会の議長をつとめた。直前の全国財務委員長会議において、常議員会の下に設置された教区活動連帯金検討委員会で検討中の案

について岡本知之委員長から報告されたが、これについて引き続き時間をとって協議した。報告された将来の教団のビジョンについて、各教区でも議論がなされるのか「教団が連帯金を集めて教区に再配分するとあるが、教団がいったん集

約する意味は「この委員会からの提案はどのようなプロセスで決定されることになるか」「この制度のもとで教区の独自性・固有性がどのように担保されるか考慮してほしい」などの質疑・意見に対し、岡本委員長は「教団とは別に、当然、教

区での方策が必要となる。教団と教区で一致して個教会の伝道を支える体制を作る」「教団として集めることで『1%の拠出』を実現したい」「当委員会の結論は常議員会に答申として提出され、常議員会でそれが検討・決定される」と答えた。

この後、議事に入り、2010年度教区活動連帯金配分協議会記録について、誤字を訂正して承認した。続いて2012年度の教区活動連帯金拠出・受入額について、資料に基づき計良祐時財務幹事から説明された。これに対し、神奈川教区および中部教区は「もちかえって検討したい」と表明した。そこで、最終的な調整を次期の教区活動連帯金配分検討委員会に付託することを決定した。

2011年度教区活動連帯金配分検討委員会について、前期に引き続き北海・東京・兵庫・東中国の各教区議長を選出し、宇野稔東中国教区議長の祈禱をもって協議会を終了した。(久世そらち報)

12年度予算負担金は0.5%減の方向

第1回全国財務委員長会議

第37総会期第1回全国財務委員長会議が、9月26日、27日に、教団会議室で開催された。

第1日目の冒頭、伊藤瑞男予算決算委員長は、一般的な教団財務状況を報告、特に東日本大震災への対応

金局の説明・質疑応答で、有澤禧年出版局長は「信徒の友」や「こころの友」が各教会の伝道活動に寄与できる内容を目指している」と述べ、数田安晴年金局理事長から「退職年金積立金が40億円を超えたこと、掛金と給付金の収支差額が謝恩日献金等で補填されている」ことが説明され

最も多くの時間を割いたのは、教区活動連帯金検討委員会の報告と意見交換だった。岡本知之委員長から、急激な教勢減少に対処するために、伝道を目的に各教区から教区経常収入の1%の拠出をお願いし、その1/3を①全教区に、②1/3をこれまでの教区活動連帯金受入教区に重点的に配分、③1/3を教団で伝道

の長期的展望のもとに基金とすることを骨子にした作業内容が示された。これに対して、多くの教区から忌憚らない意見が続出したが、岡本委員長は、各教区の実情を尊重しつつ、抜本的且つ安定的な支援の不可欠を強調した。

最後は、伊藤予算決算委員長への祈りをもって閉会した。(宮下重康報)

大阪のぞみ 辞(主)村上恵理也
〃 就(主)石井和典
神戸女学院中高 就(教)安森智司
大島シオン 辞(主)森田好和
新生 辞(主)法元聖親
〃 就(主)法元聖親
深谷 就(主)法元聖親
上総大原 就(主)堀江知己
福島 辞(主)堀江知己
〃 就(主)堀江知己
本宮 辞(主)安井 潤
〃 就(主)安井 潤
〃 就(主)安井 潤
涌谷 辞(主)平井孝次郎
明石ホテル 就(主)柳澤 豊
名古屋 就(主)張 仁恵
津島日光川燈台 就(主)成 成奎
正教師転入
梅田與四男 (第4回常議員会承認)
教師隠退
菅原一天、小笠原政敏、榮 潤子、鎌倉孝安、高野牧人、村上 宏
教師退任
市瀬真輔
教師休職
上野玲奈、大西英恵
伝道所廃止
延岡東海、出水・水俣
伝道所より教会設立
甲陽園

訂正 (新報4727号)
江差 就(主)藤崎裕之
江差 就(主)藤崎裕之
江差 就(主)藤崎裕之
お詫び・訂正
新報4735号、西中国教区部落解放現場研修会欄、「金澤昌善報」を「金澤正善報」に、お詫びして訂正いたします。

個教会の伝道を支える新体制を！

教区活動連帯金配分協議会



沖縄教区と東海教区は欠席

消息

海老原保三氏(隠退教師)



11年9月19日逝去、85歳。千葉県に生まれる。'57年東京神学大学大学院修了、同年京都教会に赴任、'62年より'93年まで保原教会を牧会し、'96年に隠退した。遺族は妻・海老原三津枝さん。

事務局報

教師異動

青山学院高等部 辞(教)坂上三男
九段 就(代)長山信夫
福岡女学院大学 就(教)大島一利
小平学園 辞(主)横山正美
岡本 就(担)有吉研一
徳島北 辞(代)大田健悟
〃 就(主)高木絵平
岸和田 辞(主)石井和典
〃 就(代)市川忠彦

訂正 (新報4727号)
江差 就(主)藤崎裕之
江差 就(主)藤崎裕之
江差 就(主)藤崎裕之
お詫び・訂正
新報4735号、西中国教区部落解放現場研修会欄、「金澤昌善報」を「金澤正善報」に、お詫びして訂正いたします。

救援対策本部室(通称11号室)始動

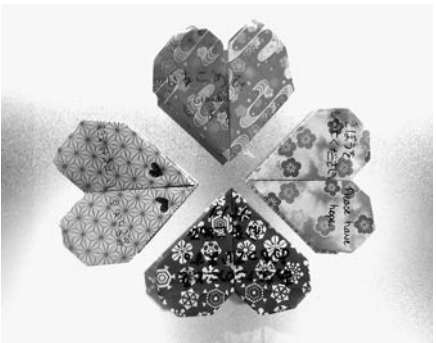
◎ 祈りに支えられて、寄り添う支援を ◎

今夏7月22日、日本キリスト教会館1階の11号室が救援対策本部室としてオープンしました。ここでは主に教会復興と合わせて人道支援を中心とした「海外献金プロジェクト」を展開する部署として機能しています。

進行中のプロジェクトは仙台の「東北教区 被災者支援センター」(通称「エマオ」)、8月より始動した「エマオ石巻」をはじめとする生活復興支援、遠野にある「自殺防止センター」のグリーン・ケア、放射能の影響下にある子どもたちの命を守るプロジェクト「エアコン設置プロジェクト」「短期保護プログラム」、またキリスト教系学校の奨学金プロジェクト、会津放射能情報センターや炊き出し支援など



私たちは視察、という言葉を使わず、できるだけ現場でボランティアや現地スタッフたちとともに「ワーク」をしていくことを心がけています。なぜなら、視察では被災地しか見ることができませんが、現場で「ワーク」をすれば被災者に出会えるからです。被災された方々から聞いた「流した涙にはだまされない」けれども「流した汗は信用できる」と話されたその言葉をしっかりと肝に銘じて、「隙あらばワーク」をモットーに東北を走り回っています。



上: 左・事務室内にて
右・加藤(幹事)、前北、白鳥
中: 被災教会よりの週報、写真なども
下: オーストラリアの子供たちからのハート折り紙のお見舞カード(和紙に日本語で)

どの教会を中心とした市民活動への支援や超教派との支援コラボレーション企画、キリスト教関係諸施設への支援など多岐にわたります。

被災地での支援活動も岩手、宮城、福島では抱えている問題が全く違います。特に、岩手で展開している自殺防止センターが向き合っている仮設住宅での「孤独を含めた個人では抱えきれない現実」の問題は、いよいよ大きくなってきています。今は時間をかけて、また本格的な冬になる前に、「こんなにばっ！」「あらアナタ、また来たの？」という信頼関係をしっかりと作ることが求められています。

また、放射能問題では「子どもの命を守る」という対策本部委員たちの熱い思いが形となった「エアコン設置プロジェクト」に加え「放射能から子どもたちを守る具体的な保護プログラムを行おう」という声から生まれた「短期保護プログラム」など、長期的な取り組みが具体的に進んでいます。会津放射能情報センターの働きへの支援も、すでに活動している彼らの良きサポーターになれるように何度も足を運び、現場の意見に耳を

傾け、その想いや活動の一つひとつを大切に受け取りました。

この部屋には加藤誠救援対策本部担当幹事(世界宣教委員会担当兼任)、エマオで泥かきボランティアだった前北未央、最近エマオで泥かきボランティアになった白鳥正樹の3名がおります。7月より活動を開始した私たちですが、あまりの現実の大きき、過酷さに圧倒されています。けれども神様の御心を尋ねつつ心をこめてひた走る中であって、被災地を覚えて私たちが送り出してきたさっている、多くの方々の祈りにもまた支えられていることを感じます。

震災から8ヶ月余、被災を免れた地域では落ち着いた感があるかと思いますが、被災地域では「まだ8ヶ月余」多くの方々が「わすれないでほしい」「まだ終わってはいない」という切なる思いを持っています。変わらず、皆様の継続的な支援を心からお願ひ致します。

(前北未央報)

《ドイツ留学 奨学金公募》

- ◎資格
神学・基督教で修士課程修了程度、35才まで
- ◎募集奨学生数
若干名
- ◎応募期限
2012年1月16日
- ◎問合せ先
NCCドイツ教会関係委員会
(TEL 03-3203-10372)

日本基督教団公式サイト URL 変更のお知らせ

日本基督教団公式サイトがリニューアル、以下のよう
にURLを変更いたしましたのでお知らせいたします。
<http://uccj.org/> (http://uccj-e.org/ 英語サイト)

◇ 第8回「農」に関する協議会開催 ◇

- ◎日時
2012年2月28日(火) 14時～29日(水) 11時
- ◎場所
松山城東教会・友輪荘
- ◎主題講演
塩入隆氏(長野本郷教会員)
- 「農村地方において伝道の幻に仕える」
―賀川豊彦における農村伝道―
- ◎費用
教区推薦(交通費、宿泊費伝道委員会負担)
自主参加(実費自己負担)
- ◎申込・問合せ
教団伝道委員会(TEL 03-3202-10544)

《日本基督教団年鑑刊行のお知らせ》

このたび、日本基督教団年鑑2012年版を刊行いたしました。前年版以降の新たな情報を満載しておりますので、是非お買い求め下さい(定価3,600円+税)。また、ご購入いただいた方には、是非アンケートハガキにお答えいただき、当年鑑についてのご感想やご批判をいただければ幸いです。来年3月に発行予定の追録をお送り致します。
なお、直接お買い求めの場合は、事務局総務部(TEL 03-3202-10544)にお電話ください。
2011年11月
日本基督教団事務局総務部



清水 広幸さん

キリストと教会に仕える

「るようになった」と表現する。祈りの内に、キリスト教学校での教師の働きが、自らへの召命と受け止められるようになり、25歳で母校の教員へ。以来26年に亘って教壇に立ち、若い魂を見守り、祈り、共に歩んできた。現在は進路指導の責任を担う。「キリスト教学校としての進路指導はどのようなべきか。学力に見合った進学先を用意すること、終わってはならないのではないかな。主なる神が、生徒一人ひとりにどのような賜物を個性として与え、どのような人生の進路をご計画の内に備えておられるのか。生徒と教師が共に祈りつつ聴き取り、その先に開かれていく進路であらう」と語る。

高校1年生のとき、浅草教会の礼拝へ出席した。教会へ足を運ぶのは生まれて初めてであったが、聖学院高校へ入学し、聖書の授業で教会へ行くよう勧められたことがきっかけとなった。高3のクリスマスに林田秀彦牧師より受洗。牧師や教会員の温かさに導き入れられるように教会の一員となったものの、実はキリスト教信仰の深いことは何もわかっていなかったと振り返る。

青年時代、日本基督教団の牧師・信徒有志により開催されている「全国教会青年同盟修養会」へ参加したことが、信仰と生活を形作る上で、大きな出来事だった。毎年春と夏の修養会では、毎回変わらぬテーマ「キリストと教会に仕える」を巡って、若手牧師の講演を聞き、諸教会から集まった同年代の青年たちと時間を忘れて、熱く真剣に語り合い祈り合った。その交わりを通して「信仰生活のフォーカス(照準)」がじわりと合わせられ



1960年生まれ、越谷教会員・役員、聖学院中高教諭。

世界宣教委員会より 訂正のお願い

- ①宣教師報告
『2011年ー2012年 共に仕えるために 第27号』26頁
ベルリン日本語教会、秋葉睦子宣教師ご住所「Breitenbachplatz 21, 14195 Berlin, Germany」を「Nikolaus-Bares-Weg 47, 12279 Berlin, Germany」に、訂正願います。
- ②『世界宣教の日(2011年10月2日) 献金一覧』(2011年8月付け発行) 個人(欄)「松岡幸子 20,000」を削除し、海外(欄)「クアラルンプール 日本語キリスト者集会 20,000」を、追加願います。